

議会改革調査特別委員会 行政視察報告書

視 察 日 程 令和6年7月9日（火）～11日（木）
視 察 先 栃木県那須塩原市、栃木県栃木市
参 加 者 委員長 谷内 開 副委員長 杉浦 良子
委 員 三宅 繁博 吉田善三郎 谷 國光

【栃木県那須塩原市】視察項目：主権者教育における取組について

人口113,701人 面積592.74平方キロメートル 議員定数26人（令和6年6月1日時点）

1 高校生との意見交換会について

令和2年に臨時議会報告会の位置づけで実施したものであり、通常の議会報告会と同様に議会報告と意見交換会の2部構成で実施したが、意見交換の時間を確保してほしいとの要望により、令和3年からは議会報告会と独立した事業としている。

この意見交換会では、テーマを「私たちが住むまちに、私たちが将来やってみたいこと」として、複数班に分かれてワークショップを行い各班から提出されたマニフェストの中から一番共感できるものに投票をするという取組をしている。

（1）目的

- ・市政や議会活動への興味・関心を喚起する
- ・地域の構成員としての意識を醸成し、まちづくりについて考えるきっかけを作る
- ・若年世代の意見を聴取する
- ・議会活動に対する認知度を向上させる

（2）実施主体

- ①広聴広報委員会及び参加希望議員：議員がファシリテーターとして参加
- ②選挙管理委員会：若年世代に向けた選挙啓発を行うため共催するもの

（3）取組内容

- ①市議会の仕組みの説明
- ②意見交換会（ワークショップ）
- ③マニフェストを立案
- ④模擬投票（マニフェストに対して）
- ⑤選挙管理委員会による選挙啓発
- ⑥投票結果発表

（4）事業後のアンケート結果（令和5年）

【設問1】18歳になったら選挙（投票）へ行こうと思いますか

回答：必ず行く 43%（23名中10名）
行こうと思う 57%（23名中13名）

【設問2】今回の取組で、市議会や選挙に関心が持てましたか

回答：関心が持てた 100%（23名中23名）

2 中学校への出前講座について

(1) 目的

- ・市議会への興味・関心を喚起、理解を深める
- ・将来の主権者としての政治参加意識を醸成する

(2) 実施主体

- ・広聴広報委員会及び参加希望議員：講師として参加

(3) 取組内容

- ①議員が二人一組となり実施
- ②実施時間は50分間（授業の1コマ）
- ③議会の仕組みを説明
- ④議会に関する〇×クイズを実施
- ⑤質問の受付

(4) 事業後のアンケート結果（令和5年）

【設問1】出前講座は面白かったですか

回答：面白かった 72%（457名中329名）

【設問2】市議会についての説明は理解できましたか

回答：理解できた 72%（457名中329名）

【設問3】質問コーナーは面白かったですか

回答：とても面白かった 70%（457名中320名）

【設問4】議員の印象は変わりましたか

回答：変わった 90%（457名中411名）

【設問5】18歳になったら選挙（投票）へ行こうと思いますか

回答：必ず行く 42%（457名中192名）

多分行く 48%（457名中219名）

まとめ

那須塩原市議会は、議会改革度調査2023総合ランキングでの総合順位は65位となっており、議会改革における先進的な取組を行っている市議会である。今回は、主権者教育における取組の中で、若年世代に対して市政・市議会への関心・投票率の向上等において効果があると思われる「高校生との意見交換会」及び「中学校への出前講座」について視察を行った。

本市議会においては、今年度の議会啓発事業で若年世代に対して「議員と『未来の四国中央市』語ろうや!」を実施したところであり、今後、高校生をはじめとする若年世代を対象とした事業を的確に展開するためには、対象者の興味・関心があるテーマ、取組内容などにおけるニーズを把握することが肝要であると考ええる。

那須塩原市議会では、中学校及び高等学校へ議会から働きかけることで、若年世代に対して議会啓発及び主権者教育の推進を実現している。まず、「高校生との意見交換会」については、議員がファシリテーターとして参加し、共通テーマに沿ったグループワークを通して

意見交換をしている。グループワークの最終目標はmanifestoの立案であり、各グループから提出されたmanifestoに対して、参加者である高校生が投票することで、選挙啓発にもつなげている。このmanifesto立案と模擬投票の取組は、市政及び選挙を身近に感じさせる取組であり、主権者意識を醸成させることにおいても効果的であると考ええる。本市議会においても、このようなアイデアを今後の議会啓発事業に反映させていきたいと考えるが、本質は意見交換であり、そのほかの取組を盛り込むと長時間となり参加者の負担となってしまうおそれがあるため、取組方法を慎重に検討していく必要がある。

次に「中学校への出前講座」について、本市の出前講座のメニューの中にも市議会が行う項目が記載されているものの近年では申込みがないのが実情である。那須塩原市議会のように対象を定めたアプローチによる出前講座は、議会啓発として有効な手段だと捉えられる。今回は、中学生・高校生を対象とした事業について視察を行ったが、どの事業においても共通の課題は学校との調整である。学校の理解・協力が得られない状況では、十分な成果が得られる事業の実現は難しいと考えるため、市議会活動の理解を促進する取組と学校から無理なく協力を得られる運用方法の検討が肝要であると考ええる。

【栃木県栃木市】視察項目：住民参画における取組について

人口153,747人 面積252.8平方キロメートル 議員定数28人（令和6年6月1日時点）

1 中学生議会について

栃木県誕生150年記念事業として、市との共催により令和5年12月に開催したものであり、市内の公立・私立中学校14校から選出された14名の中学生議員が市長などの市の執行部に対して一般質問を行う模擬議会である。

（1）目的

- ・中学生の自由な発想をまちづくりに活かす
- ・主権者として社会に参画していく意欲の向上
- ・若年世代の投票率の向上

（2）実施における役割分担

市：庁内の調整、学校との調整、参加者・保護者への通知、マスコミ対応等
市議会：事前の勉強会の運営、リハーサル、当日の運営等

（3）中学生議会準備会の立ち上げ

- ・副議長を座長に希望議員及び各党派から選出された11名の議員によるもの
- ・勉強会の実施内容の検討、勉強会のリハーサル等を行う

（4）本番までの取組

- ・説明会
参加生徒及び保護者に中学生議会に関する事業内容の説明
- ・第1回勉強会
取組内容

- ①市議会の役割及び一般質問についてを動画で説明
- ②発言通告書作成に当たっての注意点の説明
- ③登壇順の決定（くじ引き）
- ④議長の選出（前半、後半で1名ずつ）
- ⑤グループによる発言主旨の検討・決定
- ⑥発言通告書の作成（テーマの選択理由、発言明細）

議員の指導における注意事項

- ①自主性を尊重し、必要以上に答えを教えないこと
- ②議員個人の意見を代わりに質問させないこと
- ③アドバイスをする際には否定や批判をしないこと

・第2回勉強会までの課題（参加生徒に対して）

読み原稿の作成

- ①テーマ選択の理由口述書と明細ごとの質問口述書を作成（期限は約2週間）
- ②課題は議会事務局へ提出し、議員が添削して参加生徒に返却
- ③議員のアドバイスを踏まえて、修正を検討

・第2回勉強会

取組内容

- ①読み原稿の最終確認
- ②議員が質問の細かいニュアンスを確認（執行部によるヒアリングができないため）

・中学生議員全員協議会

議員が作成した中学生議会宣言案の協議を行ったもの

・リハーサル

会議の流れ、注意事項の確認、質問席での質問原稿の朗読、動きの確認を通して実施

・本番

会議は実際の会議規則にのっとり行われ、一般質問では、執行部の答弁に疑問点・不十分な点がある場合は再質問も可能とした。また、中学生議会宣言を採決する際は、議場システムを利用して表決した

（5）効果（アンケート結果）

- ・参加生徒全員が社会参画していく意識が「高まった」、「やや高まった」と回答
- ・参加生徒全員が市議会や議員の活動に対する理解が「深まった」、「やや深まった」と回答

（6）今後の課題

①学校との調整

学校の年間計画策定前の説明、学校の負担が少ない運営方法の検討が必要

②参加者の確保

参加生徒を増やすためには学校の協力が必要であるが、学校の状況を考慮すると困難

③開催後の追跡調査

投票等への影響が不透明、提案に対する継続的な調査研究が不足

2 高校生との意見交換会について

議会報告会の一環として開催しているものであり、若年世代の意見の市政への反映及び政治参加の重要性に気づいてもらうとともに、議会・議員を身近に感じてもらうことを目的としている。

内容としては、全議員を班編成し、市内の高等学校8校に出向きワークショップ形式による取組を行い、その成果を提言書として市長に提出しているものである。

(1) 議会の体制

- ・各会派から選出された9名の委員で構成した議会報告会運営委員会が企画・運営
- ・全議員（定数28名）で4班を編成し、1班当たり2校を訪問

(2) 学校との調整

- ・事前に開催における協力が可能か打診を行った後、各校と日程調整を行う
- ・参加者の募集を学校に依頼
- ・開催の約2か月前には、担当教諭と打合せを行う

(3) 令和4年度の意見交換会

概要

- ・第1部を議会の説明、第2部を意見交換とし、全体の実施時間を90分程度とする

第1部 議会の説明

- ①議会PR動画の上映
- ②議会クイズ
- ③議員への質問タイム

第2部 意見交換

- ①テーマ「もし私が市議会議員になったら」に沿ってワークショップ形式で実施
- ②具体的な内容を付箋紙に書き出し、ブレインストーミング（集団発想法）を行う
- ③意見の整理・分類
- ④予算ポイントを振り分け、優先順位を付ける
- ⑤グループでまとめたテーマ内容を高校生が発表し、それに対して議員がコメント
- ⑥議員が全体のまとめを行う
- ⑦高校生と議員の代表が感想を述べる

(4) 工夫した点

- ・高校生が意見を出しやすい雰囲気づくりを重視したルールを設定
 - ①話を遮らない
 - ②意見は簡潔に
 - ③発言に対してリアクションをする
 - ④批判、否定はしない
 - ⑤楽しく
- ・アイスブレイクを実施
- ・ファシリテーション研修を実施し、議員のスキルアップを行った
- ・議員が事前リハーサルをすることで、当日の流れを把握

(5) 成果と反省点

・成果

- ①124名が参加し、高校生から身近なことにに関する意見が出された
- ②参加者に対するアンケートでは、約94%が選挙に行く意識が高まったと回答、約96%が議会・議員を身近な存在に感じたという回答

・反省点

高校生に意見を出してもらうことを優先しすぎた結果、議員から学びを得たいと考えている参加者がいると思われる中で「議論する」という要素が不足してしまった

(6) 令和5年度の意見交換会

概要

- ・第1部を議会の説明、第2部を意見交換とし、全体の実施時間を90分程度とする

第1部 議会の説明

議会PR動画の上映

※十分な意見交換の時間を確保するため、議会クイズ、議員への質問時間を割愛

第2部 意見交換

- ①テーマ「人口が減っても住みやすいまちってどんなまち？」に沿ってワークショップ形式で実施
- ②具体的な内容を付箋紙に書き出し、ブレインストーミング（集団発想法）を行う
- ③理想とする栃木市の将来像の検討
- ④将来都市像と基本方針の決定
- ⑤具体策の議論
- ⑥発表・まとめ・感想（令和4年度と同様）

(7) 成果と反省点

・成果

- ①94名が参加し、様々な分野について意見が出された
- ②参加者に対するアンケートでは、令和4年度と同様に高い満足度が得られた

・反省点

- ①「議論をする」ということを議員側に十分に共有できていなかった
- ②作業を終わらせることにとらわれてしまい、十分に議論できなかった班があった
- ③ワークショップ形式には、意見の可視化などのメリットもあるが可能な限りシンプルな内容が望ましい

(8) 議会報告会開催に伴う提言書

市長への提言

- ・議会報告会での意見・要望の中から、特に喫緊の課題と考える事項
- ・提言内容は、議会報告会運営委員会で協議
- ・提言書は、委員会としてではなく議会として提出
- ・提言した項目は、一般質問等の議員活動に活用
- ・提言に対する対応状況については、執行部より文書で回答

- ・回答内容は、次年度の議会報告会結果報告書により市民に周知

(9) 今後の課題

- ・学校との日程調整が困難であり、校風や担当教諭によって姿勢に違いがみられる
- ・参加者が一部に限られ、2年連続の開催では参加者の重複もみられる
- ・議員によって熱量に差があり、ほかの議会活動と結びつかず単発で終わる

まとめ

栃木市議会は、議会改革度調査2023総合ランキングでの総合順位は159位であったが、住民参画についての順位は68位であったため、今回の視察項目の分野においては、先進的に取り組まれていると思われる。その中でも若年世代を対象とした中学生議会と高校生との意見交換会について視察を行った。

まず、中学生議会について、本市議会も昨年度に高校生議会を開催しており、参加者である高校生から市政・議会に関心を持つよい機会となったと評価していただいたところではあるが、より充実した事業内容を目指し、次の開催に向けて調査したものである。

栃木市議会の中学生議会では、本番までに説明会をはじめ、二度の勉強会、通しでのリハーサルを行うなど入念な事前準備が行われていた。事前準備は参加者である中学生が議員とともに取り組むため、当初からアイスブレイク、ブレインストーミング（集団発想法）による発言主旨の検討などを通して、関係性の構築に努めていた。こうした取組は、参加者の議会・議員に対する興味・関心の向上にもつながり、また、質問原稿を作成するに当たり、参加者自身の考えを表現しやすくなったのではないかとと思われる。

ここでも、やはり共通する課題は学校との調整であり、学校の年間計画を前提とした中で、教員への負担等を極力軽減するために、事前の協力伺いや十分な準備期間の設定が必要で、取組内容についても簡略化できる部分は極力簡略することで事業における本質となる部分に限られた時間を充てることができるのではないかと考える。

次に、高校生との意見交換会については、90分という限られた時間の中で、昨年度の反省点を生かし、実施内容を取捨選択することで、より意義のある意見交換会を実現していた。若年世代との充実した意見交換会を実現する上で、意見を出しやすい雰囲気づくりが重要となってくると考える。これは、本市議会で実施した「議員と『未来の四国中央市』語ろうや!」でも重視した点であり、外部講師の進行によるアイスブレイクをはじめとする雰囲気づくりや運営の中で、意見を出しやすい雰囲気の創出に努めたところである。

今回の視察項目は、いずれも若年世代を対象とした事業についてであり、共通する課題や運営方法、工夫点が多々あった。課題については、視察を通して再認識することができ、より明確な改善方法が見えてきたと思われる。また、運営方法や工夫点については、参考となる事例も多く、参加者に寄り添った取組が重要であると認識できた。

2市議会の視察を通して学んだ事例は、本市議会の事業のさらなる発展に寄与するものであり、また、若年世代の社会参画、主権者意識の醸成、投票率の向上等は将来の市政に大きく影響する重要な要素であることを再認識する機会となった。今後もこれらを念頭に置き、委員会活動に邁進したい。